

令和4年度第2回山形市障がい者自立支援協議会定例協議会

日時 令和5年2月21日（火）

午前10時から

会場 山形市庁舎7階 701会議室

次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 自己紹介

4 報 告

(1) 日中サービス支援型指定共同生活援助事業者の評価について・・・資料1

(2) 令和4年度活動実績について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2

5 協 議

(1) 山形市障がい者自立支援協議会専門部会の再編成について・・・資料3

6 そ の 他

7 閉 会

令和4年度 第2回山形市障がい者自立支援協議会定例協議会 出席者名簿

番号	専門分野	関係団体名	氏名	出欠	備考
1	事業所等	山形市福祉団体連絡会	田中 頼子	出	
2	事業所等	山形市福祉団体連絡会	遠藤 暁子	出	
3	事業所等	山形市社会福祉事業団	高橋 有紀	出	
4	教育・保育	山形県特別支援学校長会	佐藤 辰也	出	
5	保健・医療	山形県医療ソーシャルワーカー協会	後藤 美紀	欠	
6	保健・医療	山形県精神保健福祉士協会	森岡 布美子	出	
7	地域相談	山形市民生委員児童委員連合会	松田 洋一	欠	委員変更
8	高齢者・介護	一般社団法人山形県地域包括支援センター等協議会	長岡 芳美	出	
9	就労支援	山形公共職業安定所	沢 和浩	出	
10	就労支援	山形障害者職業センター	中野 智子	出	代理出席 香月 敬
11	就労支援	山形商工会議所	星川 由紀子	欠	
12	権利擁護	山形県弁護士会	石垣 肇之	欠	
13	当事者・家族	山形市身体障害者福祉協会	高橋 公夫	出	
14	当事者・家族	山形市手をつなぐ育成会	岩澤 明子	出	
15	当事者・家族	山形県精神障がい者団体連合会 山形さくら町病院家族会すずらの会	島貫 利治	欠	
16	福祉	山形市社会福祉協議会	齋藤 竜也	出	
17	相談支援事業所	相談支援部会	阿部 恒憲	出	
18	行政機関	山形市教育委員会学校教育課	飯野 明史	出	
19	行政機関	山形市福祉推進部障がい福祉課	丹野 俊郎	出	職務代理者

事務局

所 属	氏 名
ゆあーず	松村 智和
山形市社会福祉協議会障がい者相談支援センター	橋本 晶子
地域活動支援センターおーる	田村 英明
相談支援事業所まんさく	大滝 正貴
山形コロニー相談支援センター	中川 真紀子
向陽園地域生活支援センター心音	会田 雄
山形市 障がい福祉課	飯野 哲生、浅井 和江、海和 弘信、 日野 孝寛、神藤 拓哉、若月 智博

日中サービス支援型指定共同生活援助事業者の評価について

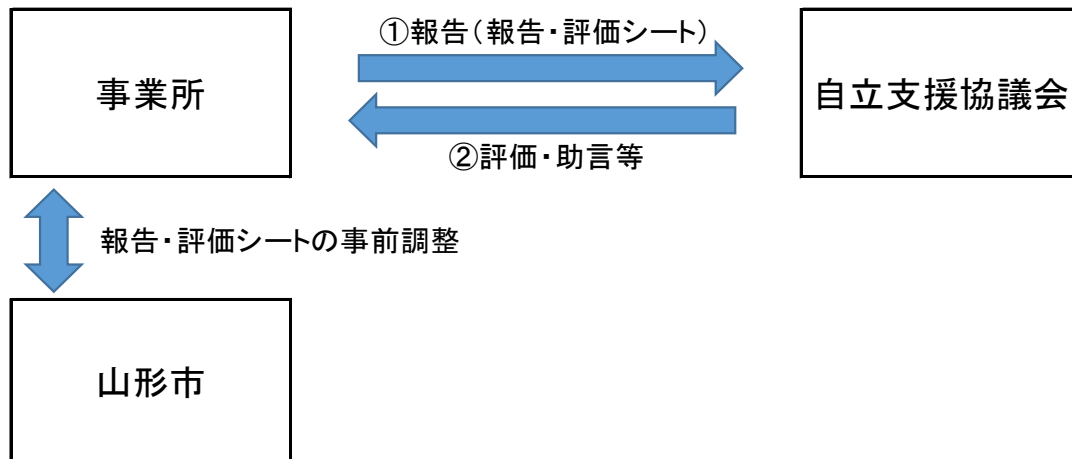
1 概要

日中サービス支援型指定共同生活援助事業者は、地域に開かれたサービスとして、当該サービスの質の確保を図る観点から、自立支援協議会に対し、定期的に（年 1 回以上）事業実施状況等を報告し、自立支援協議会による評価を受けるとともに、必要な助言等を受けることとなっております。

2 評価の流れ

- ①報告：当該事業者より、自立支援協議会に対し、事業実施状況等の報告を行う。
- ②評価：自立支援協議会より、当該事業者に対し、評価・必要な助言等を行う。

【イメージ図】



3 報告・評価対象期間

- ① 令和3年1月1日～令和3年9月30日 【P1～P7】
※令和3年度第2回山形市障がい者自立支援協議会定例会（書面協議による開催）で頂いたご意見・ご質問への回答
- ② 令和3年10月1日～令和4年3月31日 【P8～P13】
※令和4年度第1回山形市障がい者自立支援協議会定例会（書面協議による開催）で頂いたご意見・ご質問への回答

【報告・評価対象期間 令和3年1月1日～令和3年9月30日】

【報告・評価日 令和4年2月9日】

事業所名：指定共同生活援助事業所こもれび・指定短期入所事業所こもれび

① 報告・評価シート(令和3年1月1日～令和3年9月30日)

項目	【事業所記入欄】						
施設概要	事業者名	指定共同生活援助事業所こもれび 指定短期入所事業所こもれび		人員配置	日中		
	指定日	令和3年1月1日			世話人	生活支援員	
	所在地	山形市中桜田2丁目6-8			11人	9人	
	定員数(共同生活援助)	10人			(常勤換算後)	(常勤換算後)	
	定員数(短期入所)	1人(2人)※			4.5人	4人	
	共同生活住居数	1戸			看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 人	
	【住居の内訳】	【定員数の内訳】			夜間		
	住居名：	名			世話人(夜間)	世話人(夜間)	
	住居名：	名			人	0人	
	住居名：	名			(常勤換算後)	(常勤換算後)	
	住居名：	名			人	1人 ・ この1人は生活支援員のことが。	
	住居名：	名			看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 人	
事業所の特色・独自の取組	10名定員の日中サービス支援型グループホームに2床の短期入所事業所を併設し事業を実施。 ※短期入所の1床は山形市障がい者地域生活支援拠点整備事業(緊急短期受入)を受託。						
利用者状況 (令和3年9月30日現在)	障害支援区分	人数		内訳	主な障がい種別利用者人数(重複はそれぞれ記入)		
	非該当	人			身体	総数：	1人
	区分1	人			主に日中GHで過ごす人数：		1人
	区分2	人			知的	総数：	8人
	区分3	人			主に日中GHで過ごす人数：		0人
	区分4	1人			精神	総数：	1人
	区分5	5人			主に日中GHで過ごす人数：		1人
	区分6	3人			難病等	総数：	0人
	合計	9人			主に日中GHで過ごす人数：		0人
	年齢構成	・60歳以上 0人 ・50歳代 1人 ・40歳代 7人 ・39歳以下 1人					

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
1 地域に関わられた運営	利用者に対する指定計画相談支援の提供は別法人が行っているか。	(別法人等による指定計画相談支援の提供状況) 全利用者 (9) 名中 別法人 (5) 名、セルフプラン (0) 名	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
	実習生やボランティアを受入れているか。	(受入人数) 実習生 (0) 名、ボランティア (0) 名 (受入事例) ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため受入れていない。新型コロナウイルス収束後は受入れていく。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
	地域住民との交流の機会が確保されているか。	(利用者と地域の交流を広げるための取り組み事例) ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため交流の機会を設けていない。新型コロナウイルス収束後は交流の機会を設けていく。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
2 常時の支援体制の確保	日中・土日を含めた常時の支援体制が確保されているか。	(日中・土日を含めた職員の配置状況等) ・日中・土日を含め、グループホーム入居者及び短期入所利用者の利用状況を考慮した勤務体制をとり、平日・土日を含め朝7時～21時まで、世話人及び生活支援員を合わせて、2名以上の職員を配置することを基本としている。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし ・21時以降は生活支援員が1名ということか。
	災害時における、利用者への安全対策（マニュアル作成等）を講じているか。	(安全対策（マニュアル）や避難訓練の実施等の事例) ・年度ごとに消防署に防災計画書を提出し火災を想定した総合訓練を年2回実施。・総合訓練（通報・避難・消火訓練）、3/26・8/2 ・夜間想定通報避難訓練 10/25、防災マニュアル有。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
	体調急変等への支援体制が確保されているか。迅速に対応したか。	(緊急時の対応方法（利用者の急な体調変化等）事例) ・利用者の急な体調変化等が認められた場合に、速やかに家庭や医療機関等と連絡を取り、早期の受診等、状況に応じた適切な対応が取れるよう、マニュアル等により緊急時の連絡体制を整備している。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
	利用者の嗜好を考慮した献立を基本とし、それぞれの心身の状況に応じた食事提供・支援しているか。	(利用者の嗜好や心身状況等を考慮した食事提供) ・主な食事は利用者の嗜好を考慮しまんさくの丘の管理栄養士が献立を作り、まんさくの丘の調理職員が調理したものをグループホームに搬入、それを世話人が個人の状況に合わせて（刻み食等）提供し、生活支援員と共に必要に応じた介助を行っている。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
3 短期入所の併設	地域で生活する障害者を積極的に受け入れているか。	(通常受入人数) 実人数 (22) 名 延人数 (75) 名	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
	緊急・一時的な支援等の受入に対応しているか。	(緊急受入人数) 実人数 (4) 名 延人数 (21) 名 ・具体的には、親と二人暮らしの対象者が、養護者である親の急病等により、緊急の支援が必要になり受け入れるという内容のものが多 い。	<input type="checkbox"/> 問題なし ・できたばかりの事業で、現場の苦労があることも容易に想像ができるが、ニーズに対して、この数字をどう判断、分析できるのか、他委員の意見を聴きたい。
4 支援の実施・質の確保	充実した地域生活を送るため、外出や余暇活動等の支援をしているか。	(利用者の外出や余暇活動等の事例、支援体制) ・開所時から新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出や交流事業は控えている。休日はグループホーム内で入居者ごとの意向や嗜好を考慮し、散歩や簡単な創作活動、音楽鑑賞等を取り入れている。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし ・コロナ後は、ぜひ楽しいイベント等を企画して充実した生活になるよう考えて欲しい。
	支援の質の確保に努めているか。(研修等)	(職員が参加した研修名等) ・法人内 救命救急研修会 (令和3年7月14日) 2名 ・山形県知的障害者福祉協会山形市支部会研修会 (令和3年9月9日) 6名 ・山形県知的障害者福祉協会権利擁護推進委員等研修会 (令和3年10月8日) ・山形県知的障害者福祉協会権利擁護研修会 (令和4年2月予定) ・山形県強度行動障がい支援者研修会 (基礎研修) ・山形県強度行動障がい支援者研修会 (実践研修)	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
	グループホームの入居を見据えた体験的利用を行っているか。	(事業所体験利用の実施状況) □有 ☑無 (事業所体験利用人数) (-) 名 (事業所体験利用から本入居に繋がった人数) (-) 名	<input type="checkbox"/> 問題なし ・希望者がいなかったということか。 ・重度の知的障がい者の受け皿の機能として、実績があるものだと思っていた。 ・他施設や家から GH に入居する前の段階として、体験的利用を受け入れて欲しい。 ・周知がなされていないのが原因ではないか。 ・コロナ禍がゆえに実施できないということか。 ・体験利用のニーズがなかったのか、あえて利用をつけなかったのか。体験利用を希望する保護者は多いと感じているが、どうか。
	利用者・家族からの意見・希望に対して、改善しようとしているか。	(利用者・家族からの意見・希望及び対応状況) ・内容の正確な理解に努め、必要に応じて関係職員や相談支援事業所との間で情報を共有し、協議及び検討を行い、適切に改善できるように取り組んでいる。 具体例として、入居 8 カ月を経過した利用者が、帰省後グループホームに戻るのを渋るようになってきたと両親が相談に来所。本人の特性を考慮しグループホーム生活の中に、本人の役割(係)を設け、それらに対する職員の感謝と励ましで、本人が意欲と充実感を持てるように支援を継続したことで、グループホームへ戻り生活することが出来た。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし ・個別の特性に応じて、きめ細やかな対応によって成果に繋がったことを嬉しく思う。失敗体験となると、今後の生活が変わってしまうので安堵した。

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
5 利用者の権利擁護等への配慮について	利用者の金銭管理については、本人同意の上、帳簿等により適切に管理されているか。また、判断能力が著しく低い利用者については、成年後見制度の利用等の支援を行っているか。	<p>(金銭管理の支援方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月ごとに家族から生活の必要経費を受け取り、家賃、食費、光熱水費等の支払いを行い、受診支援、買い物支援等を行う場合は、月々必要額の医療費、日用品代等を預かり金庫で保管し、入出金記録簿により適切に管理する。なお、不要な残額は家族に返金する。 <p>(成年後見制度の利用支援及び利用者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用支援事例等(□有 <input checked="" type="checkbox"/>無) ・有の場合の支援内容記載(利用者数 - 名) 	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
	利用者のプライバシーに配慮した支援となっているか。(個人情報の管理、複数の選択肢の提供、自己決定・家族の合意等)	<p>(利用者に配慮した支援、取組み(個人情報の管理、利用者・家族の意思確認・合意等))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者のプライバシーと個人ごとの状況に配慮しながら支援し、情報の管理についても家族や関係者の間で必要最小限の情報に留めるように配慮している。 ・利用者及び家族の思いを大切に合意形成しながら支援に当たることを基本とし、通常の介助、特にトイレや入浴等の介助を必要とする利用者に対しては同性介助を基本としている。また支援においては選択可能なものについては、自己決定・意思確認できる環境、支援をしている。 	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
	虐待等の権利侵害の防止、発生時の対応は適切か。	<p>(虐待等に関する研修の受講状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県知的障害者福祉協会権利擁護推進委員等研修会(令和3年10月8日) ・山形県知的障害者福祉協会権利擁護研修会(令和4年2月予定) ・法人内 虐待防止研修会(令和4年3月予定) <p>(虐待発生時の対応、発生後の対応等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>虐待発生を確認した場合は正確な状況を把握に努め、マニュアルを策定し、被害者及び告発者保護を最優先し管理者に報告。管理者から速やかに山形市及び家族等に報告し、山形市の指導の下で本人家族へ適切な対応を行う。その後は、再発防止に向けて早期に原因の究明と</u> 	<input type="checkbox"/> 問題なし <ul style="list-style-type: none"> ・(下線部について)「マニュアルに基づき」という解釈でよいか。

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
		改善策を策定しその徹底を図る。	
6 入居/退去 状況について	報告/評価対象年度中において、退去理由の確認及び入居時に適切な判定(流れ)が行われているか。	(入居者数) (10) 名 (退去者数及び事由) ・退去者数 : (1) 名 ・退去者数 : 令和3年度 (1) 名 7月退去 ・主な退去事由 : 疾病のため共同生活が困難となり自宅に戻った。	<input type="checkbox"/> 問題なし ・高齢の親元に返しても問題がなかったのか、気がかりである。
7 他の日中活動サービスの利用	GH内でどのような日中サービスを提供しているか。	(日中をGH内で過ごす利用者に対する支援・サービスの提供内容) ・利用者の状況に合わせ、室内では簡単な創作活動や体操及び軽運動、音楽鑑賞やDVD鑑賞、入浴及び整容の支援等。屋外では気候や気温を考慮しながら、近隣散歩や日光浴等。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
	他の日中活動サービスの利用を妨げていないか。	(他の日中活動の利用状況) 他の日中活動サービスを利用 全利用者 (9) 名中 (8) 名 (主な他の日中活動サービス種別・利用先) ・生活介護事業所 恵光園 ・就労継続B型 じゃんぷ	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
8 利用者の健康管理	日々の利用者の健康管理をしっかりと行っているか。	(具体的な健康管理の方法等について) ・毎日、全員の健康状態の確認、体温の測定、一部利用者の血圧測定、必要な利用者の服薬管理を実施、希望があれば受診同行も実施している。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
9 他事業所との連携	相談支援事業者や他のサービス事業所との連携を行っているか。	(具体的な連携状況の事例について) ・必要に応じて相談支援事業者や他のサービス事業所との連携を行い、必要な連絡や情報交換等を行っている。 具体的な事例としては、グループホーム内で課題となる行動が増えてきた入居者について、相談支援事業所、日中活動事業所、家族の間で情報交換の場を設け、支援者相互が共通理解を図りながら改善について検討した。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
10 その他	事業所で抱えている課題に対して、改善しようとしているか。	(事業所における課題・助言を求めたいこと及び対応状況) ・家庭以外で生活した経験がない入居者が複数おり、家庭から離れたグループホームでの生活に慣れるのに時間がかかっている。対応としては、家族と連携を密にし、家族、こもれびが共通した認識を持つ、本人の生活サイクル、嗜好を取り入れる等を行っている。	<input type="checkbox"/> 問題なし ・若い頃からの GH 体験利用を促進すべきではないか。 ・複数人の課題は解決できたのか。 ・現在も継続している人はいないのか。
11 (2回目以降) 協議会の評価を受けてからの取り組み	これまでの評価を踏まえた取り組み等について記入。 ※事業所自由記載		

その他意見

- ・当該事業所を知らなかったため、評価することに戸惑いがあったが、事業所の申告を信頼し問題なしとした。
- ・開設の目的に「地域に開けた事業所」とあるようなので、市民はじめ、より広く周知や活動紹介、地域交流などを実施して欲しい。

【報告・評価対象期間 令和3年10月1日～令和4年3月31日】

【報告・評価日 令和4年7月28日】

事業所名：指定共同生活援助事業所こもれび・指定短期入所事業所こもれび

②報告・評価シート（令和3年10月1日～令和4年3月31日）

項目	【事業所記入欄】						
施設概要	事業者名	指定共同生活援助事業所こもれび 指定短期入所事業所こもれび		人員配置	日中		
	指定日	令和3年1月1日			世話人	生活支援員	
	所在地	山形市中桜田2丁目6-8			11人	9人	
	定員数（共同生活援助）	10人			（常勤換算後）	（常勤換算後）	
	定員数（短期入所）	1人（2人）※			4.5人	4人	
	共同生活住居数	1戸			看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 人	
	【住居の内訳】	【定員数の内訳】			夜間		
	住居名：	名			世話人（夜間）	世話人（夜間）	
	住居名：	名			人	0人	
	住居名：	名			（常勤換算後）	（常勤換算後）	
	住居名：	名			人	1人	
	住居名：	名			看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 人	
事業所の特色・独自の取組	10名定員の日中サービス支援型グループホームに2床の短期入所事業所を併設し事業を実施。 ※短期入所の1床は山形市障がい者地域生活支援拠点整備事業（緊急短期受入）を受託。						
利用者状況 (令和4年3月31日現在)	障害支援区分	人数		内訳	主な障がい種別利用者人数（重複はそれぞれ記入）		
	非該当	人			身体	総数：	1人
	区分1	人				主に日中GHで過ごす人数：	1人
	区分2	人			知的	総数：	8人
	区分3	人				主に日中GHで過ごす人数：	0人
	区分4	3人			精神	総数：	1人
	区分5	4人				主に日中GHで過ごす人数：	1人
	区分6	2人			難病等	総数：	0人
	合計	9人				主に日中GHで過ごす人数：	0人
	年齢構成	・60歳以上 0人 ・50歳代 1人 ・40歳代 7人 ・39歳以下 1人					

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
1 地域に開かれた運営	利用者に対する指定計画相談支援の提供は別法人が行っているか。	(別法人等による指定計画相談支援の提供状況) 全利用者 (9) 名中 別法人 (5) 名、セルフプラン (0) 名	☑問題なし ・4名は同法人で行っているのか。
	実習生やボランティアを受入れているか。	(受入人数) 実習生 (0) 名、ボランティア (0) 名 (受入事例) ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため受入れていない。新型コロナウイルス終息後は受入れていく予定。	☑問題なし
	地域住民との交流の機会が確保されているか。	(利用者と地域の交流を広げるための取り組み事例) ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため交流の機会を設けていない。新型コロナウイルス収束後は交流の機会を設けていく。	☑問題なし
2 常時の支援体制の確保	日中・土日を含めた常時の支援体制が確保されているか。	(日中・土日を含めた職員の配置状況等) ・日中・土日を含め、グループホーム入居者及び短期入所利用者の利用状況を考慮した勤務体制をとり、平日・土日を含め朝7時～21時まででは、世話人及び生活支援員を合わせて、2名以上の職員を配置することを基本としている。	☑問題なし
	災害時における、利用者への安全対策（マニュアル作成等）を講じているか。	(安全対策（マニュアル）や避難訓練の実施等の事例) ・年度ごとに消防署に防災計画書を提出し火災を想定した総合訓練を年2回実施。・総合訓練（通報・避難・消火訓練） ・夜間想定通報避難訓練10/25、防災マニュアル有。	☑問題なし
	体調急変等への支援体制が確保されているか。迅速に対応したか。	(緊急時の対応方法（利用者の急な体調変化等）事例) ・利用者の急な体調変化等が認められた場合に、速やかに家庭や医療機関等と連絡を取り、早期の受診等、状況に応じた適切な対応が取れるよう、マニュアル等により緊急時の連絡体制を整備している。	□問題なし ・関係機関と定期的なマニュアルの見直しが必要かと思われます。
	利用者の嗜好を考慮した献立を基本とし、それぞれの心身の状況に応じた食事提供・支援しているか。	(利用者の嗜好や心身状況等を考慮した食事提供) ・主な食事は利用者の嗜好を考慮しまんさくの丘の管理栄養士が献立を作り、まんさくの丘の調理職員が調理したものをグループホームに搬入、それを世話人が個人の状況に合わせて（刻み食等）提供し、生活支援員と共に必要に応じた介助を行っている。	☑問題なし

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
3 短期入所の併設	地域で生活する障害者を積極的に受け入れているか。	(通常受入人数) 実人数 (46) 名 延人数 (150) 名	☑問題なし ・利用数が前期の2倍となっており、周知が進んでいることと必要性を感じる。 ・半期で46名の方の短期入所を受け入れていただいていることに感謝します。
	緊急・一時的な支援等の受入に対応しているか。	(緊急受入人数) 実人数 (2) 名 延人数 (5) 名	☑問題なし
4 支援の実施・質の確保	充実した地域生活を送るため、外出や余暇活動等の支援をしているか。	(利用者の外出や余暇活動等の事例、支援体制) ・開所時から新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出や交流事業は控えている。休日はグループホーム内で入居者ごとの意向や嗜好を考慮し、散歩や簡単な創作活動、音楽鑑賞等を取り入れている。	☑問題なし
	支援の質の確保に努めているか。(研修等)	(職員が参加した研修名等) ・山形県知的障害者福祉協会権利擁護推進委員等研修会 (R3.10.8) ・山形県知的障害者福祉協会権利擁護研修会 (R4.3.9) ・山形県強度行動障がい支援者研修会(基礎研修) (R4.11.11~12) ・山形県強度行動障がい支援者研修会(実践研修) (R4.12.7~8)	□問題なし ・まだ実施されていない研修について評価するのか。 ・権利擁護研修会への参加は、大変素晴らしいことだと思います。なお事業所内で全職員に共有されていることを願います。
	グループホームの入居を見据えた体験的利用を行っているか。	(事業所体験利用の実施状況) □有 ☑無 (事業所体験利用人数) (-) 名 (事業所体験利用から本入居に繋がった人数) (-) 名	□問題なし ・空床がない場合でも日帰り体験等の工夫は可能ではないか。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策もあると思うが、今後は状況に応じて体験利用の実施等も検討していただきたい。

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
	利用者・家族からの意見・希望に対して、改善しようとしているか。	(利用者・家族からの意見・希望及び対応状況) ・支援困難なご家庭の要望を受けて入居に必要な物品の購入を行い、帰省時の送迎の支援を行っている。	□問題なし ・利用者、家族からの意見や希望について、どのようなものが出されているかをより具体的に記入していただきたい。
5 利用者の権利擁護等への配慮について	利用者の金銭管理については、本人同意の上、帳簿等により適切に管理されているか。また、判断能力が著しく低い利用者については、成年後見制度の利用等の支援を行っているか。	(金銭管理の支援方法) ・月ごとに家族から生活の必要経費を受け取り、家賃、食費、光熱水費等の支払いを行い、受診支援、買い物支援等を行う場合は、月々必要額の医療費、日用品代等を預かり金庫で保管し、入出金記録簿により適切に管理する。なお、不要な残額は家族に返金する。 (成年後見制度の利用支援及び利用者数) ・利用支援事例等(□有 <input checked="" type="checkbox"/> 無) ・有の場合の支援内容記載(利用者数 - 名)	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
	利用者のプライバシーに配慮した支援となっているか。(個人情報の管理、複数の選択肢の提供、自己決定・家族の合意等)	(利用者に配慮した支援、取組み(個人情報の管理、利用者・家族の意思確認・合意等)) ・利用者のプライバシーと個人ごとの状況に配慮しながら支援し、情報の管理についても家族や関係者の間で必要最小限の情報を留めるように配慮している。 ・利用者及び家族の思いを大切に合意形成しながら支援に当たることを基本とし、通常の介助、特にトイレや入浴等の介助を必要とする利用者に対しては同性介助を基本としている。また支援においては選択可能なものについては、自己決定・意思確認できる環境、支援をしている。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
	虐待等の権利侵害の防止、発生時の対応は適切か。	<p>(虐待等に関する研修の受講状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山形県知的障害者福祉協会権利擁護推進委員等研修会 (R3. 10. 8) ・山形県知的障害者福祉協会権利擁護研修会 (R4. 3. 9) ・法人内 虐待防止研修会 (R4. 3. 11) <p>(虐待発生時の対応、発生後の対応等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待発生を確認した場合は正確な状況を把握に努め、マニュアルを策定し、被害者及び告発者保護を最優先し管理者に報告。管理者から速やかに山形市及び家族等に報告し、山形市の指導の下で本人家族へ適切な対応を行う。その後は、再発防止に向けて早期に原因の究明と改善策を策定しその徹底を図る。 	<input type="checkbox"/> 問題なし <ul style="list-style-type: none"> ・現在は、マニュアルが無いということか。
6 入居/退去状況について	報告/評価対象年度中において、退去理由の確認及び入居時に適切な判定(流れ)が行われているか。	<p>(入居者数) (9) 名</p> <p>(退去者数及び事由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退去者数 : (1) 名 ・退去者数 : 令和3年度 (2) 名 7月、12月退去 ・主な退去事由 : ①疾病のため共同生活が困難となり自宅に戻った。 ②保護者がどうしても一緒に生活したいという希望のため自宅に戻った。 	<input type="checkbox"/> 問題なし <ul style="list-style-type: none"> ・入居、退去時の判定会議等は、どのような職員で行われているか。
7 他の日中活動サービスの利用	GH内でどのような日中サービスを提供しているか。	<p>(日中をGH内で過ごす利用者に対する支援・サービスの提供内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に合わせ、室内では簡単な創作活動や体操及び軽運動、音楽鑑賞やDVD鑑賞、入浴及び整容の支援等。屋外では気候や気温を考慮しながら、近隣散歩や日光浴等。 	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
	他の日中活動サービスの利用を妨げていないか。	<p>(他の日中活動の利用状況)</p> <p>他の日中活動サービスを利用 全利用者 (9) 名中 (8) 名</p> <p>(主な他の日中活動サービス種別・利用先)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護事業所 恵光園 ・就労継続B型 じゃんぷ 	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし

項目	評価の観点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【自立支援協議会記入】 助言・評価 (問題がない場合は□にチェック)
8 利用者の健康管理	日々の利用者の健康管理をしっかりと行っているか。	(具体的な健康管理の方法等について) ・毎日、全員の健康状態の確認、体温の測定、一部利用者の血圧測定、必要な利用者の服薬管理を実施、希望があれば受診同行も実施している。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
9 他事業所との連携	相談支援事業者や他のサービス事業所との連携を行っているか。	(具体的な連携状況の事例について) ・両親の高齢化でひきこもりの生活をしていた方を、相談支援と連携することで、短期入所を経て GH 入居まで至ることが出来た。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
10 その他	事業所で抱えている課題に対して、改善しようとしているか。	(事業所における課題・助言を求めたいこと及び対応状況) ・緊急ショートで受け入れた後の受け入れ先を見つけるのは、相談支援事業所だけでは難しい。また、引き続き生活の状況が不安定な方への支援が課題である。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題なし
11 (2回目以降) 協議会の評価を受けてからの取り組み	これまでの評価を踏まえた取り組み等について記入。 ※事業所自由記載	①体験利用について多くのご指摘を受けたが、そもそも当グループホームは体験利用の設定をしておらず、かつ、体験利用自体が空床を利用しての制度である(満床時は利用できない)ことをご承知いただきたい。 ②現在はコロナ禍の元、地域交流、ボランティアの受け入れは実施していないが、個人の意向を聞きながら考えていきたい。	

令和 4 年度活動実績について

○定例協議会

回数	実施日	内容
第 1 回	R4. 7. 28 (書面協議)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 3 年度の事業実績について ・ 山形市の障がい福祉について ・ 山形市障がい福祉計画 (第 6 期計画) 及び山形市障がい児福祉計画 (第 2 期計画) の中間報告 ・ 日中サービス支援型指定共同生活援助事業者の評価について ・ 令和 4 年度事業計画について

○事務局会議

回数	実施日	内容
1 1 回	毎月 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月々の相談支援事業の報告 ・ 専門部会の経過報告 ・ 定例協議会に諮るべき事項の提案 ・ 障がい福祉サービス事業所ガイドの作成 ・ 山形市公式ホームページへ山形市障がい者自立支援協議会に関する情報を掲載 ・ 地域の障がい者等の支援体制に係る課題の整理・検討

会議名	事務局会議
内容	地域生活支援拠点等が有する機能の充実に向けた協議等
実施日	R4. 8. 17、R4. 10. 14、R4. 12. 14
出席者	山形市委託相談支援事業所、山形市障がい福祉課
目的	地域生活支援拠点等に求められる機能について検証と課題の整理を行い、機能の強化に努める。
検証事項	①相談 ②緊急時の受け入れ・対応 ③体験の機会・場の確保 ④専門的人材の確保・養成 ⑤地域の体制づくり
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間休日の山形市と相談支援事業所の連携について確認。 ・ 緊急時の受け入れ・対応に関するチラシを作成し、障がい者手帳の新規取得者及び障がい福祉サービス事業所あてに配布している。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時に短期入所を利用する際の送迎時の支援について ・ 緊急受け入れ先の拡充について

○専門部会

1 相談支援部会

会議名	相談支援部会
内容	相談支援体制の強化、受け入れ情報の共有、研修参加報告、部会活動報告、グループスーパービジョンの調整、ピアサポーターの活用の検討、関係機関との連携、緊急対応ケースの共有・検討、その他情報交換
実施日	毎月1回（状況に応じてZoom開催）
出席者	全相談支援事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	相談支援事業所間で連携し、断らない相談支援体制を作る。
主な意見	・月に1度情報共有や意見交換を今後も継続して行う必要がある。
今後に向けて	・断らない相談支援体制作りのため関係機関や他部会との連携を継続して行う。 ・地域生活支援拠点の相談体制の強化の話し合いを継続して行う。 ・山形市におけるピアサポートの役割や取り組みを知る機会を作り、ピアサポート活用の検討に繋げる。

会議名	グループスーパービジョン
内容	事例を用いたグループスーパービジョンを行い、事例提供者への気づきを促す
実施日	毎月3回
出席者	全相談支援事業所、山形市障がい福祉課 ※上記出席者を3グループに分けて実施
課題・目的	輪番で事例提供を行い、相談支援専門員が思い悩んでいるケースについて、全員で協議。アプローチ方法をはじめ様々なアイデアを出し、気づきを促して事例に活かす。
主な意見	・事例提供者は参加者からのアイデアを貰うことで、ストレングスや違う視点の気づきや考えの幅が広がる。 ・事例の共有をしながら、参加者も勉強になり、今後の支援に活かす事が出来る。
今後に向けて	・今後も継続して実施する。

会議名	相談支援部会研修会
内容	山形市におけるピアサポート活動の取り組みを知ろう 講師：発達支援研究センター、コロニー就労サポートセンター
実施日	R4.9.12（Zoom開催）
出席者	全相談支援事業所、山形市障がい福祉課 計21名
課題・目的	山形市で実践されているピアサポート活動の取り組みを学ぶ。
主な意見	・ピアサポート活動の取り組みを学び、出来る範囲から始めることが出来るということが分かった。

主な意見	・相談支援専門員が相談者のピアの芽を見つけて共有していく必要性を考える機会となった。
今後に向けて	・具体的なピアサポート活動の活用を検討する。

会議名	連携推進のための懇談会
内容	山形市基幹型包括支援センター、地域包括支援センター総合支援部会及び山形市委託相談支援事業所で集まり情報交換を行う。
実施日	R5. 1. 24
出席者	委託相談支援事業所、山形市基幹型包括支援センター、地域包括支援センター総合支援部会 計 21 名
課題・目的	高齢分野との連携強化を目的に、これまでの連携の取り組みを振り返り、情報共有を行う。
主な意見	・平成29年度より連携の取り組みが継続されてきた事で、スムーズに連携が取れるようになってきた。
今後に向けて	・来年度以降も継続して取り組み、連携強化に繋げていく。

2 就労支援部会

会議名等	就労支援部会研修会
内容	(1)「福祉事業所から一般就労へ」講師：村山障害者就業・生活支援センター 具体的な事例をもとに支援の流れ、フォローアップの仕方、連携を知る (2)「専門機関の役割と連携」 専門機関の役割とチーム支援について 講師：ハローワーク山形 専門援助部門 専門機関の役割、アセスメント力など就労支援力向上のための視点を学ぶ 講師：山形障害者職業センター その他 「山形県共同受注センター」についての説明 県健康福祉部 障がい福祉課、山形県共同受注センター コーディネーター
実施日	R4. 12. 12
出席者	就労継続支援 A 型事業所、就労継続支援 B 型事業所、就労移行支援事業所、相談支援事業所、その他就労支援関係機関等、山形市障がい福祉課 計 45 名
課題・目的	障がい者雇用の促進（福祉的就労から一般就労へ移行するためのアセスメント力の向上、支援方法や労働関係機関との連携方法を確認する機会を設ける。）。
主な意見	・就労に向けての支援内容など、具体的なケースを題材にしていて重要ポイントや課題等が分かりやすかった。

主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事例を通して現場としてどのように行動すれば良いか、更に学びたい。 ・山形障害者職業センターの事例は多く良かったが、もう少しゆっくり時間をかけて学びたかった。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の研修をもとに、更に具体的な連携の仕方や支援の方法についての研修を実施する。 ・障がい者雇用受入れ企業の拡大のため企業へのアプローチを行う。 ・企業に対して福祉サービスやジョブコーチ支援などのフォローアップ体制の周知の方法を検討する。 ・障がい者の工賃向上に向けた取り組みについて検討する。

3 保健・医療部会

会議名等	第1～2回 保健医療部会幹事会
内容	今年度の活動と課題について
実施日	R4. 6. 30、R4. 10. 20
出席者	部会幹事事業所、医療機関、山形市障がい福祉課
課題・目的	課題の確認と整理、山形市精神障がい者課題検討ワーキングの経過報告。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関側が、サービス利用の際に、どこに相談したらよいかわからない状況があるため、医療機関と相談支援事業所が、お互いの機能、役割を理解する必要がある。相互理解を深める場として、研修会を実施する。 ・相談支援事業所のパンフレットを、クリニックを含めた医療機関に配布し、周知できると良い。HPでのダウンロードや医療機関への周知について、相談支援部会で検討していく必要があるのではないか。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関と相談支援事業所が互いの役割を理解するための研修会を開催する。

会議名等	第2～4回 山形市精神障がい者課題検討ワーキング (精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築に向けて、取り組みを検討するために、令和3年度より保健医療部会から派生したワーキング)
内容	精神障がい者の退院支援に関する各機関の役割の確認、連携方法についての検討
実施日	R4. 5. 30、R4. 8. 26、R4. 12. 1
出席者	部会幹事事業所、医療機関、訪問看護、基幹型地域包括支援センター、山形市保健所、山形市障がい福祉課
課題・目的	精神障がい者の退院に向けた相談支援事業所と医療機関の連携について。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・山形市における地域課題として、退院時の支援（退院に向けた相談支援事業所と医療機関の連携）において、互いの役割の理解が不十分であることが挙げられた。そこで、退院に向けた支援の視点を共有するための連携やルール作りについて検討した。

主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援のための共通のツールを作成することも検討されたが、ツールを作成する以前に、まずは医療機関と相談支援事業所が互いの役割（退院支援に向けた取り組み）を理解し、相談しやすい関係を作ることが必要であるとの意見があり、研修会を開催することとなった。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関と相談支援事業所が互いの役割（退院支援に向けた取り組み）を理解するための研修会を開催する。 ・保健医療部会においても、医療機関と相談支援事業所が互いの役割を理解するための研修会を開催することとなり、研修会の目的・参加対象者が同じであることから、本ワーキングでは精神障がい者の支援について検討しているが、障がい種別を限定せずに合同研修会を行う。

会議名等	生活支援部会（グループホーム）・保健医療部会合同幹事会
内容	グループホームと病院の連携について
実施日	R4.7.26
出席者	各部会幹事事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	課題の確認と整理。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・各幹事より退院後に病院と連携しているケースについて意見聴取。問題なく連携できていることを確認。 ・グループホームの空き情報の確認については相談支援事業所内で共有されており、医療機関と連携することで問題は解決できる。医療機関と相談支援事業所の連携に関しては保健医療部会の課題として継続的に協議していく。 ・以前よりもグループホームの空きが増えてきている現状である。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・喫緊の課題ではない事を確認出来たが、医療機関と相談支援事業所の連携部分に関しては、保健医療部会の課題として継続。

会議名等	保健医療部会・精神障がい者課題検討ワーキング合同研修会
内容	一般病院・精神科病院と相談支援事業所が連携して、退院後に障がい福祉サービス利用に繋げた事例を紹介。その後グループワークを行い、各グループで意見交換を行い、最後に全体で共有する。
実施日	R5.2.16（予定）
出席者	市内医療機関、相談支援事業所、訪問看護事業所、課題検討ワーキングメンバー、自立支援協議会委員、山形市障がい福祉課
課題・目的	退院支援をスムーズに進められるよう、医療機関、相談支援事業所がお互いの役割の理解を深める。

4-1 生活支援部会（グループホーム）

会議名等	生活支援部会（グループホーム）・保健医療部会合同幹事会 （保健医療部会の内容を参照）
会議名等	生活支援部会（グループホーム）幹事会
内容	情報交換会
実施日	R5. 1. 31
出席者	グループホーム事業所、部会幹事事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	情報交換及び来年度にグループホーム事業所が主体となって研修会等を開催するための協議を行う。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム事業所主体で運営していくにあたり、主となる幹事事業所を決める必要がある。 ・情報交換会は定期的に行う必要があり、相談支援事業所も部会幹事事業所として継続して関わって欲しい。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム事業所、部会幹事事業所、山形市障がい福祉課でワーキンググループを開催し、主となる幹事事業所を決め、来年度の計画を策定する。

4-2 生活支援部会（居宅介護）

会議名等	第1回 生活支援部会（居宅介護）幹事会
内容	R4 年度の活動に向けての検討
実施日	R4. 5. 27
出席者	部会幹事事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	R4 年度の活動について検討と役割分担を行う。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患等による対応困難事例の検討会を行ってきたが、この課題は障がい分野だけでなく高齢分野でも課題となっており、山形市基幹型地域包括支援センターにて課題の集約及び研修会の開催等行っている。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・山形市基幹型地域包括支援センターより情報を収集し、連携して取り組む。

会議名等	第2回 生活支援部会（居宅介護）幹事会
内容	今後の取り組みについて
実施日	R4. 10. 12
出席者	部会幹事事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	部会での取り組みの方向性を検討する。

主な意見	・山形市基幹型地域包括支援センターでは11月に感染症予防と対策（訪問介護事業所と合同）に関する研修会が開催予定であり、障がい分野でも同じ課題があることを確認した。
今後に向けて	・山形市基幹型地域包括支援センター主催の研修会への参加を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期になっている。

4-3 生活支援部会（生活介護）

会議名等	第1回 生活介護事業所情報交換会
内容	放課後等デイサービスから生活介護へ移行した方の延長支援の利用状況について
実施日	R4.11.4
出席者	生活介護事業所、相談支援事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	各生活介護事業所の延長支援について現在の状況を確認する。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のニーズに対応するため、延長支援を開始し、遅番職員を配置して対応をしている事例があった。 ・家族の帰宅時間に合わない方で利用終了後、他サービスを利用されている方がいる。 ・場合によっては朝・夕の延長受け入れを行っている。その場合は原則家族送迎である。サービス等利用計画に盛り込む必要があるため、相談支援専門員の協力も必要である。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目の情報交換会を行い、対応について協議をしていく。 ・来年度に生活介護事業所が主体となって研修会等を開催するための協議を行う。

会議名等	第2回 生活介護事業所情報交換会
内容	放デイから生活介護へ移行した方の延長利用の状況について
実施日	R5.2.8
出席者	生活介護事業所、相談支援事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	延長利用の方の今後の対応について検討する。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・延長支援加算について、営業時間外での対応となるため、職員配置などが難しいという声があった。 ・障がい児福祉サービスでも延長利用をしている利用者が多いため、今後も延長利用のニーズが増えていくと考えられる。 ・サービスの質の向上ということで、生産活動を取り入れていくことを検討していきたい。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は生活介護事業所が主体となり情報交換会を継続していく。 ・他の事業所の様子を見学したいと要望があったため見学会を実施する。

5 移動支援部会

会議名等	第1回 移動支援部会幹事会
内容	R3年度の振り返り、R4年度の活動に向けての検討
実施日	R4.7.25
出席者	部会幹事事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	R4年度の活動について検討・役割分担等を行う。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度に山交バス株式会社へ公共交通機関の現状を確認。車いす利用者のバスへの乗降方法を撮影した。相談支援部会で上映し情報共有を行う。 ・相談支援部会(R4.9.12)で動画上映と説明を行い、今後相談支援専門員より、質問や意見等あれば対応する。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・移動支援へのニーズが多様化していることから、移動支援部会として協議を行うのではなく、生活支援と状況に併せて各専門部会が連携して協議検討を行う。

6 こども部会

会議名	関係機関（学校、放課後等デイサービス事業所）との情報交換会
内容	障がい福祉サービスについて（制度、保育所等訪問支援）、情報交換
実施日	R4.7.5（Zoom開催）
出席者	教育機関、放課後等デイサービス事業所、相談支援事業所、山形市障がい福祉課 計55名
課題・目的	教育と福祉の連携強化として、顔の見える関係性を構築する。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と事業所をつなげられるシステムづくりがあればよい。課題が大きくなってからではなく、常日頃から連携を図っていきたい。 ・定期的に会議を開催しているケースもあり、相談支援事業所が連携のカギとなっている。学校にいる福祉サービスを利用しているお子さんがもれなく連携できるための学校側からの取り組みがあるとよりやりやすい。 ・学校と事業所でそれぞれが知り得る情報にも限りがある。保護者にも同意を得て支援計画を共有するなどの周知の回り方もある。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを2回実施したことでより多く顔の見えるつながりをもつことができた。参加した学校とは連携に前向きであるという共通認識をもてたが、参加していない学校とのつながりをどう広めていくか検討する。

会議名	関係機関（保育園、児童発達支援事業所）との情報交換会
内容	保育所等訪問支援の周知、情報交換
実施日	R4.12.6（Zoom開催）
出席者	保育園、児童発達支援事業所、相談支援事業所、山形市こども未来課、山形市障がい福祉課 計53名
課題・目的	早期療育につなげるための取り組みや課題などを共有し、未就学児への支体体制を検討する。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 療育につなげる前段階で保護者に伝えていく難しさ、療育につながった後でも連携体制をとっていき難しさがある。 事業所への通所が難しい方には保育所等訪問支援という選択肢もある。利用しているケースは具体的な共有ができるので良い。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 早期療育につなげるためには保護者の理解、受容が重要である。お子さんにとって適切な場につながるための体制、フォローの検討を継続する。 オンラインでの開催であったが園によってはネット環境で参加が難しい所もあった。参加を広め、連携を図っていくための方法を検討する。

会議名	関係機関（幼稚園、児童発達支援事業所）との情報交換会
内容	保育所等訪問支援の周知、情報交換
実施日	R5.1.20（Zoom開催）
出席者	幼稚園、児童発達支援事業所、相談支援事業所、山形市障がい福祉課 計42名
課題・目的	早期療育につなげるための取り組みや課題などを共有し、未就学児への支援体制を検討する。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園と事業所で連携しているケースを共有。各環境で違う姿もあり、共有することで互いに支援に生かせることができる。連携の始点としては、相談支援が潤滑剤となっていければ良い。 コロナ禍で保護者がお子さんの様子を見られる機会が少ない。保護者からの困り感も出づらく、信頼関係を損なわずにつなげるのが難しい。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 制度やサービスの周知ができ、グループワークでも話が深められたのが良かった。 幼稚園が参加しやすいよう、降園後の時間帯に開催したが、参加できた園が少なかった。参加を広め、連携を図っていくための方法を検討する。

会議名	山形市医療的ケア児支援連絡会議
内容	「山形県内の医療的ケア児の現状と山形県の取組」についての説明と事例紹介を踏まえたグループワークを通じて、関係機関で医療的ケア児の現状と課題の情報共有を図り、今後の取り組みについて検討する。
実施日	R5.2.28（Zoom開催）（予定）

出席者	医療機関、医療的ケア児等コーディネーター、訪問看護事業所、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所、山形県関係課・山形市関係課、相談支援事業所、山形市障がい者自立支援協議会委員
課題・目的	医療的ケア児とその家族を地域で支えるため、医療的ケア児支援に関わる関係機関が連携し、地域の課題や対応策について意見交換や情報共有を図る。

7 安心生活部会

会議名等	第1～4回 安心生活部会幹事会
内容	災害時の対応について
実施日	R4. 4. 25、R4. 6. 23、R4. 10. 21、R4. 11. 30
出席者	部会幹事事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	災害時の福祉避難所の設置について
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者施設の福祉避難所が市内に2か所あるが、福祉避難所自体を増やしていく必要がある。 避難所としての設備を考えると、入所施設が妥当である。 避難する際の移動手段をどうするか課題がある。 個別避難計画の作成に向けて取り組む必要がある。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 防災対策課とも連携を図りながら、福祉避難所を増やしていく。 個別避難計画の作成に向けて検討をしていく。

会議名等	第2回 安心生活部会幹事会
内容	民生委員との連携について
実施日	R4. 6. 23
出席者	部会幹事事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	民生委員への障がいの理解に向けた活動を行う。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員障がい福祉研究部の方を対象として事業所見学会を開催し、障がい福祉サービスの説明等を行う。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員障がい福祉研究部の今年度の予定が埋まっており、次年度に事業所見学会を開催する。

会議名等	第2回 安心生活部会幹事会
内容	不動産業者への障がいの理解へ向けたサポートシートの作成について
実施日	R4. 6. 23
出席者	幹事事業所、山形市障がい福祉課
課題・目的	不動産業者への障がいの理解へ向けたサポートシートを作成し活用する。

主な意見	・他の自治体で既に使用されているサポートシートを参考にしながら山形市でのサポートシートを作成する。
今後に向けて	・安心生活部会でサポートシートの案を作成。相談支援部会において意見を聞き、完成版を作成する。

山形市障がい者自立支援協議会専門部会の再編成について

1 概要

山形市障がい者自立支援協議会では地域課題の内容別に解決に向け各専門部会（相談支援部会、就労支援部会、保健・医療部会、生活支援部会（GH・居宅介護・生活介護）、移動支援部会、こども部会、安心生活部会）を設置し、課題の解決に向けて、障がい児者が地域で安心した生活を送れるよう障がい福祉サービスの種類に限定せず、地域課題の解決を図ることを目的に再編成する。

2 変更案

現行	変更案
相談支援部会	相談支援部会（変更なし）
就労支援部会	就労支援部会（変更なし）
保健・医療部会	保健・医療部会（変更なし）
生活支援部会（GH）	生活支援部会
生活支援部会（居宅介護）	
生活支援部会（生活介護）	
移動支援部会	（廃止し、関連する専門部会で協議する）
こども部会	こども部会（変更なし）
安心生活部会	安心生活部会（変更なし）

〈変更内容について〉

①生活支援部会のグループ分けの廃止

これまで生活支援部会では GH・居宅介護・生活介護と分かれ、課題の検討やサービスの質の向上や情報共有を目的とした研修会を開催してきた。今後、研修会の開催は、各サービス事業所が中心となっていくこととし、生活支援部会では各事業者からの課題を整理し解決策を協議検討する。

②移動支援部会の廃止

移動支援へのニーズが多様化していることから、移動支援部会として協議を行うのではなく、生活支援と状況に併せて各専門部会が連携して協議検討を行う。